

## 1. 授業の概要

平成 26 年度前学期における教職科目 B「美術科教育法 I」を取り上げる。これは主に 2 回生を対象としたものであり、中学校および高等学校美術の教員免許を取得する際に必須となっている授業である。登録学生は学校教育教員養成課程美術教育専修の学生 1 名、芸術文化課程造形芸術コースの学生 9 名、計 10 名である。

### (1) 授業の目的

本授業は「現代の学校教育における美術教育の存在（意義・目的）を知るために、中学校美術科教育の指導に必要な能力を身につけ、学習指導要領に対する深い理解、教科書研究による教育内容の理解、指導に必要な基礎基本を習得する」ことを目的とするものである。

### (2) 到達目標

上記(1)を受けて以下の到達目標を設定した。

- 1) 中学校美術科教育に必要な基礎的な知識・指導力を身に付ける
- 2) 学習指導要領を深く理解し、教科書にある教育内容を把握することができる
- 3) 中学校美術科における活動を企画・立案し、実践することができる

### (3) 主な取組の工夫

上記(2)達成のために、主として「他とのかかわり合い」を重視した「プレゼンテーション」や「グループワーク(ディスカッション)」に重きを置いた授業構成とした。

- ①「子どもの造形活動における発達と類型」に係る講義とディスカッション
- ②「法則化」についてのディスカッション
- ③「図画工作科の性格と目標」に係る講義とディスカッション
- ④「美術科の性格と目標」に係る講義とディスカッション
- ⑤「年間指導計画」の作成
- ⑥「年間指導計画」のプレゼンテーションとディスカッション
- ⑦「活動の提案」の企画・準備

## ⑧「活動の提案」のプレゼンテーションとディスカッション

例えば③④では、学習指導要領の内容の理解を深めるために、そこに示されてある観点をもとに各自の小中学校時代の学習経験を振り返り、その意義についてディスカッションを行った。また⑤⑥および⑦⑧では、提案された活動に受講生全員で実際に取り組むプレゼンテーションや、それを受けたディスカッションを行った。このような具体的な他者とのかかわり合いを意図的に設定することで、受講生は実感をもって多様な意見に触れることができ、文献より得られた知識への理解もより深まるものと考えたのである。子どもたちのつくる行為の意味を理解する上で不可欠なものと考えているためである。

## 2. 授業評価の方法

上記 1 (3)に示したような段階を踏んで理解を深めすことを企図したことを鑑み、質問は選択式と改善点に関する自由記述で、解答率は 10/10 人であった。以下 3 に、質問項目と併せてその結果を報告する。なお紙面の都合上、自由記述の回答は摘要とした。

## 3. アンケート結果

### (1) 尺度型

別表内①～⑧は 2 (3)①～⑧と同じである。なお⑨は「本授業に係る予習・復習への取組」、⑩は「教員の話し方や配布資料等」である。

### (2) 自由記述型

#### ① 授業内容に関して今後も継続すべき点

・「年間指導計画」の発表や「活動の提案」のプレゼンテーション。以下、理由として「他の人の意見を聞くことで学べたこともあったため」「教育実習にも役立ちそうだから」「自分の考えがより深まり、美術の授業への関心も高まるから」「それぞれの考え方が出ていて面白かった」「人前で 15 分間話す時間があつたのが良かった」

・プレゼン（+意見交換）活動が良かった。

以下、理由として「書いているだけでは気

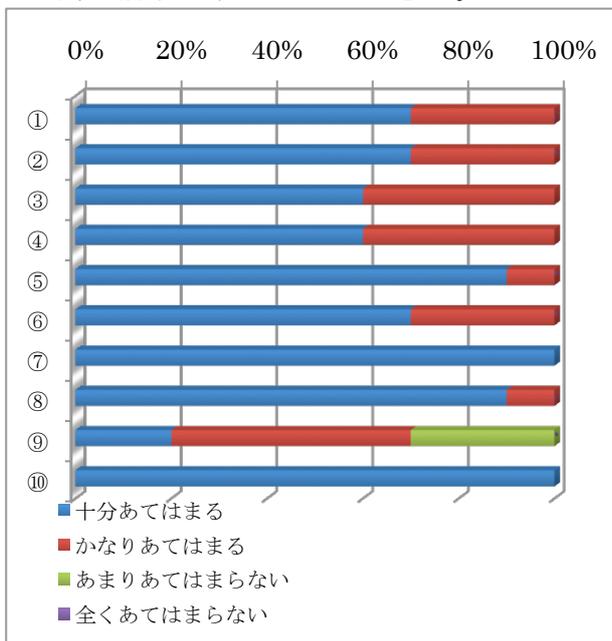
づかない点もあるため」

## ②授業内容に関して改善すべき点

- ・話し合う時間があつたのは良かったが、全員と話し合いたかつた。

## ③その他（意見・要望等）

- ・「生徒のためになる活動」を考えるのは楽しかつた。教員になつたときに生かしたい。
- ・事前の説明が分かりやすかつたため全体の見通しが持て、やる気の湧く活動だつた。
- ・「年間指導計画」「活動の提案」は大変だつた分やりがいがあり、充実してゐた。
- ・自分が授業を考える際、考えることが思つたよりも多く大変だつたが、その分熱が入り良い活動とすることができた。



## 4. 「授業時間外学習の促進」に係る取組

### (1)「年間指導計画」の作成・発表

主として到達目標 1)の知識面の充実、2)の学習指導要領に係る理解の促進、3)の美術科における活動の企画・立案に係る要件の把握をねらいとして組織したものである。

この取り組みに至るまでに受講生は「図画工作科の性格と目標」や「美術科の性格と目標」について講義を受けてはいるが、「年間指導計画」を作成するにあたり、そうした講義内容はもとより自身の経験等もふまえた3年間を見通した計画を作成しなければならないため、かつその後には発表および意見交換会が予定されていたため、授業時間外に当該計画の作成および発表の準備に取り組むことが必須となる。つまり前時までに学んだ講義の内容を整理した上で自分なりのアイデアを盛り込む必要があるため、授業時間外に全体構

成をじっくり考える必要があるのである。

### (2)「活動の提案」の企画・準備・発表

これは、上記(1)で作成した「年間指導計画」の中から題材を一つ選び、中学校の教師を相手に当該の活動を提案し実際に取り組んでもらうとともに意見交換を行うという設定で組織したものである。模擬授業ではないが、具体的な活動を提案し実際に受講生全員で取り組むものであるため、事前に提案者自らが当該の活動を行い、作品制作をしておくことを課した。自らの経験がないと提案自体に身体性が伴わず、依って題材の可能性や課題が見え難いと考えたためである。

いずれの受講生も事前準備をきちんと行い、自分なりの考えをもって活動提案の発表を行っていた。そのため3(2)にあるようなアンケート結果を得ることができた。

### (3)総括

プレゼンテーションやディスカッションを前提とした授業構成は、時間外学習を促進する上で大変有効なものであるということが出来る。自分の考えを他者にわかりやすく伝えるためには、授業時間外において講義で得た知識内容をあらためて復習し再構成することが不可欠だからである。とはいえ授業時間外学習の促進に係る上記(1)(2)の取組およびその成果が幾分結果論的なものであつたこともまた事実である。受講生によるプレゼンテーションやディスカッションの如何、そしてそこに至るまでの時間外学習の如何について十分に想定した上で企図したものとはいえないからである。したがって、特にこの点に関しては次年度に向けての大きな課題の一つといわざるをえない。

## 5. 総括

以上のことから、1(3)で取り上げた取組の工夫は、特に同⑤～⑧における時間外学習の促進を通して到達目標を達成する上で（結果的に）有効な方策の一つであつたと考えることが出来る。とはいえ、「年間指導計画」や「活動の提案」自体の質の向上もさることながら、より活発なプレゼンテーションおよびディスカッションのあり方を、より計画的・段階的に探求していくことが、同到達目標そして本授業の目的を達成する上できわめて重要なものであるということができよう。

次年度以降、さらに精緻化した取組を組織していくことができるよう心がけたい。